

石見銀山ガイドの会

代表者	和上豊子
所在地	〒694-0305 島根県大田市大森町イ 824-3
設立年月日	平成 12 (2000) 年 1 月 18 日
URL	http://iwamiginzan-guide.jp/

【活動の軸】

石見銀山は平成 19 (2007) 年、ユネスコ世界遺産に登録され、その普遍的な価値を認められました。けれども訪れる観光客からは、しばしば、その価値がわかりにくいと指摘されます。緑に覆われた坑道跡や苔むした道標、静かな町並みや険しい街道、これらひとつひとつが物語を秘めています。私たちガイドの役目は、石見銀山に生きた多くの人々が遺した“聞かれざる声”を聞き、“伝わらざる想い”を一人でも多くの方に伝える、石見銀山の“語り部”であると考え努力しています。

【活動内容】

●山、町、そして街道を歩く

石見銀山遺跡は、東西に長い島根県のほぼ中ほど、大田市の広い範囲に分布しています。史跡のコアゾーンに指定されている地域だけで約 442 ha、周辺の緩衝地帯（バッファゾーン）をあわせれば約 3,663 ha にも及びます。その内訳は、①銀採掘の場（中枢部の仙ノ山と周辺の間歩（坑道）群）（写真 1）、②石見銀山の覇権を争う武将たちによって築かれた山吹城跡、矢滝城跡、矢筈城跡、石見城跡など、③代官所が置かれた大森（重要な建造物群保存地区）（写真 2）や、銀の積出港として栄えた温泉津沖泊（写真 3）、鞆ヶ浦、宅野、④さらには銀山街道とその街道沿いの宿場町です。

私たちガイドは、史跡それぞれを大切にすると同時に、全体の歴史が“立ち上がって見えるような”ツアー行程とガイド説明を心がけています。代表的な間歩である「龍源寺間歩」では常時、“スポットガイド”として入り口付近に待機し、観光客からの質問に答えられるようにしていますし、2008 年から公開された石見銀山最大の坑道「大久保間歩」のツアーガイドも担当しています。

●銀山を学ぶ、銀山を語る

「解明されたのは全体の 1 %にも満たない」といわれるほど、謎が深く研究の余地を多く残す遺跡です。約 10 年前から始まった発掘調査で新たな坑道や生活遺物、古文書が発見されており、ガイドとして



写真 2

も常に最新の情報を踏まえて解説せねばなりません。そこで、毎月 1 回、ガイドの定例会を開いて情報交換と研修（県内外の他の史跡も含めて）に努めたりしています。平成 15 (2003) 年からはおもに市民を対象として「ガイド養成講座」も開催しております。世界遺産に登録されて観光客が飛躍的に増えた平成 20 年度には 37 名が参加しました。

●銀山の“守り手”としても

石見銀山遺跡は山に囲まれたなかにあり経路が草や竹に覆われていることは珍しくなく、マムシやハチがいることもあるので、観光客の安全のため、草取りや草刈り、竹切りなどのボランティア活動を季節にあわせて随時行い、“銀山の守り手”としての活動にも力を注いでいます（写真 4）。

●情報発信と交流

公式ホームページでは、基本的な情報（アクセス、代表的な観光コース、行事や催し、ガイド予約方法など）を提供し、ブログ「石見銀山通信」も運営しています。さらに、石見銀山に関わる団体だけでも「やなしおの道を護る会」、「銀山街道を訪ねる会」、「銀の道交流会」などがあり、石見銀山と同様、史跡を守り PR に努める多くの国内の組織とも連携を図ることで、より充実したガイド活動が育まれるよう目指しています。

●世界遺産登録、その後

2007 年 5 月、「世界遺産登録は”延期”の公算大」とのニュースが日本全国を駆け巡り、かえって石見銀山の存在が多くの人に知られたという面があります。その翌月末、逆転劇ともいえる世界遺産登録の実現。私たちにも予想がつかないほど観光客の数が増えました。依頼に応じきれなくなっているのが現状で、新人ガイドの養成は不可欠だと実感しています。と同時に、増加する観光客への充実した対応と史跡の保護・地域の保全という難しいバランスをとることが新たな課題として浮上しております。石見銀山について一人でも多くの方に理解していただくこと、人が織り成した大切な史跡を人と人が向かいあい、伝えあって守っていくという基本精神を大切に会を運営していくことが何よりの課題だと考えています。



写真 1



写真 3



写真 4